The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	塚嵜智教授のご退官に寄せて
Author(s)	鷲田, 清一
Citation	メタフュシカ. 1996, 27, p. 3-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/66583
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

塚嵜智教授のご退官に寄せて

鷲田清一

昭和四十七年（一九七二年）より二十四年間の長きにわたり、大阪大学文学部において倫理学を講じてこられた塚嵜智先生は、平成八年三月をもちまして退官されました。

塚嵜智先生は、昭和三十一年三月に京都大学文学部哲学科（西洋哲学史専攻）を卒業後、同年四月に京都大学大学院文学研究科（哲学専攻）に進学されました。昭和三十三年三月に同修士課程を修了、昭和三十六年三月に同博士課程を単位取得、退学されました。翌昭和三十七年四月、茨城大学文理学部に講師として着任、昭和四十一年四月には助教授に昇任されました。昭和四十二年六月には、茨城大学文理学部の改組にともない同大学人文学部に配置換となられました。そして、昭和四十七年四月、大阪大学文学部に助教授として着任され、以来、文学部倫理学講座を担当してこられました。昭和六十年八月には教授に昇任、さらに平成七年度よりは、大阪大学文学部の改組にともない文学部人文学科哲学講座（倫理学専攻）を担当されました。そしてこの春、定年退官ののち、大阪大学名誉教授となられました。

塚嵜先生はこの間、西洋哲学、とくに倫理学・西洋倫理学史の研究に従事され、カント倫理学、英国近世倫理学史の分野できわめて緻密な研究成果を上げられるとともに、学生の教育と講座の充実・発展にも尽力され、多くの優秀な後進を指導・育成してこられました。

塚嵜先生のこれまでのご研究の第一の柱となるのは、ホッブズからロック、ヒュームをへてJ・S・ミルにいたる英国近世の道徳哲学の流れ、自然法思想から功利主義思想へと大きく転換してゆくその流れを、同時代の宗教思想や歴史思想の展開をも視野に入れつつ、再構成し、総括する作業であります。この面の研究はきわめて綿密かつ体系的なもので、前任者、岸畑豊名誉教授の英国近世倫理学史に関する優れた研究業績とともに、本学哲学科（現、哲学講座）が全国に誇る大きな特色の一

つである英国近世哲学・倫理思想研究の伝統を築き上げたと言えましょう。

第二の柱としては、西洋近世の哲学思想の一つの核ともいえるカント哲学・倫理学の研究をあげることができます。塚嵜先生は、修士論文から日本カント協会での最近の発表まで、一貫して、カントの思想を、理論哲学の分野と実践哲学の分野の両面にわたって詳細に研究してこられました。また、カントが生前に公刊した最後の著作『実際的見地における人間学』の翻訳は、その長文の解説とともに、そうした長年の研究の蓄積に裏打ちされたもので、いまも多くの哲学研究者・一般読者によって読みつがれています。

そして第三の柱となるのが、欧米の現代倫理学の研究であります。その関連文献を塚嵜先生はこれまで数多く研究・紹介してこられましたが、なかでもピーター・シンガーの主著『実践の倫理』を翻訳されたことの意義はたいへんに大きいと言えます。倫理学研究のなかでもとくに応用倫理学（applied ethics）は、現在、新しい研究領域としてのみならず社会的要請という点でも重要性を帯びる一方でありますが、シンガーのこの著作はその領域で必読の基本文献として頻繁に参照されるものだからです。塚嵜先生はまた近年、その応用倫理学のなかでも生命倫理（bioethics）の研究に精力的に取り組まれ、『生命倫理の現在』という論文集を編まれるとともに、市民向けの講座において生命倫理を講じたり、本学医学部倫理委員会委員を務めるなど、社会的に緊急性をもつこの課題に積極的に取り組んでこられました。

このように、塚嵜先生の研究業績は、英国古典経験論にみられる道徳哲学と政治思想の研究、カント哲学の研究、現代倫理学の研究と紹介、生命倫理学への取り組みと多方面にわたるもので、その一つ一つが豊かな学識と鋭い洞察力に裏打ちされた優れた研究成果であり、関係学会にも多大な知的刺激を与え続けてきたと言えましょう。

塚嵜先生はこのような研究成果を基盤として、全国規模の学会活動においても重要な貢献をしてこられました。とりわけ、わが国における英国近世哲学・倫理学史ならびにカント研究においてはつねに指導的な役割を果たし、日本イギリス哲学会の理事ならびに日本カント協会の委員を長く務められました。そのほかにも、日本哲学会の編集委員、関西哲学会の委員、関西倫理学会の委員ならびに編集委員などを歴任し、哲学・倫理学界の発展ならびに後進の育成に大きく貢献されました。そして現在は、関西倫理学会委員長を務めておられます。

塚嵜先生は、学内でも、これまで大阪大学評議員、文学部長、大学院審議会委員をはじめとしてさまざまの要職を歴任され、本学の管理運営にご尽力いただきました。

以上のように、塚嵜智先生は、専門のご研究のみならず、後

進の指導育成に誠心誠意務められるとともに、大学運営においても労を惜しまれず、大阪大学での研究・教育に多大な貢献をされました。わたしたちが受けたその測り知れない学恩に、ここに深く感謝申し上げます。